

都道府県名	岡山県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	高梁市立高梁小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	3	2	3	2	3	17	25
児童数	61	72	96	65	93	69	5	461	

研究の概要

1. 研究主題

わかる喜び，確かな学力
 ～ 一人ひとりに応じたきめ細やかな指導のあり方を目指して ～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年
 国語・算数（思考力・判断力・表現力などの学力の基盤となる教科であり，学校全体で学力の向上に取り組むため）

(2) 年次ごとの計画

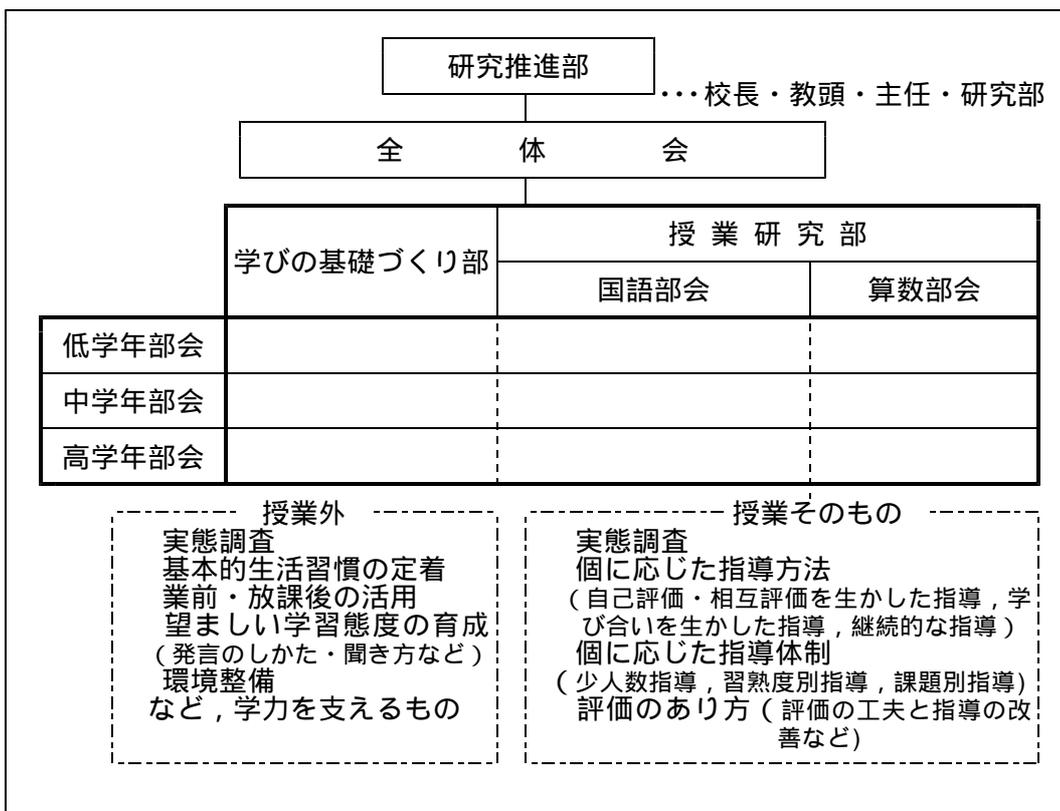
平成14年度	<p>テーマ わかる喜び，確かな学力 ～ 一人ひとりに応じたきめ細やかな指導のあり方を目指して ～</p> <p>研究の見通し（仮説） 一人ひとりの学習実態を正しくつかみ，一人ひとりに応じたきめ細やかな的確な指導を行えば，児童の学習に対する意欲を引き出すことができ，確かな学力の向上が実現できるのではないかと。</p> <p>研究の内容・方法 授業改善を核として研究を行う。 児童の実態把握……児童の学習にかかわる実態調査 課題を明らかにし効果的な指導を行うためには，児童の実態について十分な理解が必要である。そのために，学習にかかわる，次のような内容について児童の実態調査を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 興味・関心について ・ 学習習熟度について ・ 学習習慣や学習態度について ・ 基本的生活習慣について <p>学習の基盤づくり 学習に意欲を持って前向きに取り組む心を育てるためには，あたたかい学習集団づくりと，家庭と学校が協力して児童一人ひとりを育てていく取り組みが，これまで以上に大切である。 また，学校でも家庭でも温かく見守られ，進歩がわずかであっても努力の過程を十分に認められることが，児童のやる気や勇気を支えると思われる。 家庭の力を積極的に学習に生かすことについても，その手だてを模索していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的生活習慣の見直し（実態把握・家庭との連携） ・ 望ましい学習習慣づくり ・ 学び合うあたたかい学習集団づくり <p>（学級のよりよい人間関係づくり・望ましい学習態度の育成） 授業の改善……学ぶ喜びがある授業づくり 学校での学習の核は，何と云っても授業そのものである。一人ひとりに応じたきめ細やかな指導のために，次のような観点から研究を進める。</p>
--------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個に応じた指導方法の工夫 (わかる授業・驚きのある授業・自分の伸びが実感できる授業・補充学習・発展学習等の教材開発, 単元構成の工夫など) ・ 個に応じた指導体制の工夫 (少人数指導・習熟度別指導・TT指導・課題別指導・教員の得意分野を生かす教科担任制など) ・ 評価の工夫と評価を生かした指導の改善 (評価基準の研究・毎日の授業に生きる評価方法の工夫・学力の評価と指導の改善の工夫など) <p>継続的な学習指導 小学校段階では、まず、「読む・聞く・書く・計算する」といった基礎的な力を、十分に身につけることが重要である。これらの力は、全ての学びの基礎となり、思考、創造の手段となるからである。 また、これらの力の伸びを児童自身が実感することは、達成感や自分への自信につながり、学ぶ楽しさや自ら学ぶとする意欲を伸ばしていく。 これらの基礎的な力を習熟・定着させるために、どのような機会や場を設定し、どんな方法で指導すればよいか、研究を進めたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学ぶ習慣づくり(ドリルタイム・学習習慣づくり・時間割の工夫など) ・ 読書の取り組み(朝読書・読書の時間・親子読書など)
--	--

平成15年度	<p>テーマ わかる喜び, 確かな学力 ～一人ひとりに応じたきめ細やかな指導のあり方を目指して～</p> <p>研究の見通し 一人ひとりに応じ, 次のようなきめ細やかな指導を行えば, 自分に自信を持ち, 意欲的に学ぶ力を身につけることができ, 確かな学力の向上につながると考える。</p> <p>研究の内容・方法 授業改善を核として研究を行う。 学習の基盤づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的生活習慣の定着 ・ 望ましい学習態度の育成(ドリルタイム, 読書習慣づくりなど) ・ 環境整備 <p>授業の改善……学ぶ喜びがある授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価・相互評価を生かした指導 ・ 学び合いを生かした指導 ・ 少人数指導 ・ 継続的な学習指導(読み・書き・計算)
--------	--

平成16年度	<p>テーマ わかる喜び, 確かな学力 ～一人ひとりに応じたきめ細やかな指導のあり方を目指して～</p> <p>研究の見通し 一人ひとりに応じ, 次のようなきめ細やかな指導を行えば, 自分に自信を持ち, 意欲的に学ぶ力を身につけることができ, 確かな学力の向上につながると考える。</p> <p>研究の内容・方法 授業改善を核として研究を行う。 学習の基盤づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的生活習慣の定着 ・ 望ましい学習態度の育成(ドリルタイム, 読書習慣づくりなど) ・ 環境整備 <p>授業の改善……学ぶ喜びがある授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価・相互評価を生かした指導 ・ 学び合いを生かした指導 ・ 少人数指導 ・ 継続的な学習指導(読み・書き・計算)
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・ 生活リズムの実態調査を定期的に繰り返し行い、集計結果と学校からのお願いを保護者あてに配付したことで、児童自身が自分の生活リズムに目を向けるようになってきた。
- ・ 朝ドリル、朝読書などの朝学習の時間が充実し、始業時間から自主的に学習を始められるようになった。
- ・ 学習に取り組む姿勢がよくなっている。授業の始めから学習に集中し、学習活動に真剣に取り組む意欲や態度が伸びている。
- ・ 聞き方、話し方の指導として、
 人の話を最後まで聞く。
 基本話形を利用して、理由づけをしながら意見を発表する。
 ことについて、全校で指導に努めたことにより、以前より落ち着いて話が聞けるようになり、理由づけをしながら発言する児童が増えた。
- ・ 国語科の授業改善として、
 単元構成の工夫
 相手意識を持って学習に取り組めるような発表の場の工夫
 一人ひとりが自分で考え書き込みながら学習を深めるワークシートの工夫
 自己評価・相互評価の工夫
 を行うことによって、児童自身が学習のめあてを持つことができ、毎時間の学習がなめらかにつながった。また、国語の学習に積極的に取り組もうとする児童が増えた。
- ・ 話し合いの中で学んだことをノートに付け加えて書く学習活動を継続することで、
 まわりの人物の様子から主人公の心情を読む。
 言葉と言葉、文と文、場面と場面などを関連づけて読む。
 などの読解力が身につけてきている。
- ・ 児童の作文や日記で、
 文章量の増加

- 相手を意識した表現の工夫
 段落ごとにまとまりのある表現
 段落相互の関係を意識した表現
 などの文章表現力の向上が見られる。
- 話し合い活動や相互評価活動を通じて、友達の考えのよさを素直に認めることができるようになってきている。ノートに友達から学んだことを書き足し、自分の考えを深めている様子が見られるとともに、友達のよさを進んで見つけようとする視点が身についてきている。また、自分を振り返って、次の学習に生かそうとする態度も育ってきている。
 - 算数科の授業の改善として、
 少人数指導（1～3年）
 学び合う学習過程の工夫（個人 グループ 学級全体）
 学習到達度や進度に応じた学習形態や教材・プリントの準備
 などを行ったことで、「算数が好き」と答えた児童が増加し、「嫌い」と答えた児童が減少した。
 また、学習時間いっぱい学習に取り組もうとする態度が伸び、質問や教え合いなどが、自然にできるようになっている。
 - 評価の工夫として、次の取り組みを行った。
 研究授業の中で目標に準拠した評価のあり方を工夫
 ... 研究授業を中心に評価の具体的な項目と基準を考えたことで、授業の目標が明確になり、的確な指導が行えるようになってきた。
 学習意欲を高める評価方法の工夫
 ... 自己評価、相互評価、ミニテスト・チェックテストの継続などは、児童自身が評価に加わる方法であり、学習意欲向上に大きな効果があった。課題や自分の伸びを自覚できる場になるようである。
 - 国語科・算数科、および課外で、基礎的・基本的な事項の習熟のために、次のことについて継続的な指導を行った。
 音読... 授業の中で一人ひとりが文章を十分に読む時間を確保するとともに、家庭学習の中でも毎日取り組ませるようにした。
 具体的に「教材文の学習に入る前に10回以上読む。」「その単元が終わるまでに 回以上読む。」などの具体的な数値目標を示すとともに、練習記録を残したり、家の人に感想を書いてもらったりする取り組みによって、文字を読む機会が増え、力が向上してきた。
 漢字学習... 2学期末をめやすとして当該学年の新出漢字を全て指導し、同じ漢字テストを繰り返し実施して定着を図った。漢字学習を行う時間は、授業時間や朝の学習時間にきちんと組み込み、継続して取り組んだ。
 このような取り組みによって、ほとんどの児童が、当該学年の学習漢字について、テストで8割程度の正解が出せるようになってきた。自分の力の向上を実感して、漢字の学習に意欲的に取り組めるようになった。
 - 読書... 週1回木曜日の朝の15分間を全校読書の時間、また1～4年生では週1時間、高学年では月1時間を国語科の学習としての読書の時間と位置づけ、学校司書の専門性も生かして、継続的な取り組みを行っている。また、読書週間に合わせ、親子読書も年2回実施した。これらの取り組みによって、本を長く続けて読んだり最後まで読み通したりするなど、読む力が伸びてきた。
 - 計算・測定などの反復練習
 ... どの学年でも、反復練習によって、計算力の向上が見られた。高学年では、百マス計算によって、分数や小数などの計算でも間違いが少なくなるといった効果も表れてきた。
 また、「やればできる。」という自信がついている様子が見られ、算数科の学習に対する取り組みが前向きになってきた。

